

令和 4 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	2 8	校名	茨城県立海洋高等学校					課程	全日制		学校長名			前田 浩一			
教頭名	橋本 浩一										事務（室）長名			川崎 敦司			
教職員数	教諭	2 7	養護教諭	1	常勤講師	2	非常勤講師	3	実習教諭、実習講師、実習助手		9	事務職員	3	技 術 員 職 等	2 6	計	7 4
生徒数	小学科		1 年		2 年		3 年		4 年		合 計		合 計 ク ラ ス 数				
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	海洋技術科		1 8	2	1 3	1	2 3	1			5 4	4	3				
	海洋食品科		2 3	9	1 8	1 0	1 6	1 3			5 7	3 2	3				
	海洋産業科		3 5	6	2 7	3	1 6	0			7 8	9	3				

2 目指す学校像

教育基本法及び本県教育の目標の示すところにより、豊かな人間性と人格の完成を目指し、社会の発展に貢献し得る、心身ともに健全な海洋技術者を育成する。

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	○基礎的・基本的な知識や学力を確実に習得し、水産・海洋教育をとおして、生きて働く知識・技能を身につける。 ○人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」を育むとともに未知の状況にも対応できる能力を育成する。 ○社会の一員として不可欠な、規範意識、コミュニケーション能力、社会性、倫理観を育み、地域に信頼され、愛される地域産業の担い手を育成する。
---------------------------------------	---

別紙様式 1 (高)

教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	○水産業並びに海洋関連産業に従事するスペシャリストを養成するために、体験型の学びを数多く取り入れるなど、教育課程の編成を工夫し、生徒が主体的・意欲的に学習し、社会人として役に立つ人間力を育成する学校をめざす。 ○ 大学進学や就職など、生徒の多様な進路希望に応じ、個人面接や進路ガイダンスなどを行い、きめ細かな進路指導の充実を図る。 ○生徒一人ひとりが学びを通して、充実感・達成感を体験すると共に、集団生活を通して、生き生きとした人間関係を築き、体育祭・海洋祭（隔年実施）やクラスマッチなどを生徒自らが計画・実行できるよう学校行事の内容の充実を図る。
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	○海・船・魚など水産・海洋関連に興味のある人。 ○自ら積極的に学ぼうとする人。 ○自分を大切にすると共に、他人に対して思いやりの心を持つ人。 ○日本と世界で活躍を目指す人。

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	海のスペシャリストを目指し、自らの興味・関心を高めて積極的に学習活動に励む生徒がいる。	言語力の育成が十分でない生徒も存在しており、言語活動を充実させる取り組みが必要である。
生徒指導	あいさつや身だしなみが身に着いた生徒が増え、本校生徒に対する地域住民からの評判が高まっている。	時間を守り、欠席・遅刻をしない習慣を確立させる。
進路指導	就職する生徒の約 5 割が水産・海洋関係企業への就業である。また、水産・海洋系大学等へ進学する生徒が見られる。	企業との連携を一層推進し、就職後の定着率を高める一方、進学に向けた指導体制を整備する。
特別活動	生徒が学校行事や部活動の趣旨を理解して真摯な態度で参加し、自ら楽しむ姿が見られる。	生徒主体の自主的な集団活動をより活性化させる。

別紙様式 1 (高)

		行事等から自己実現とキャリア形成のため、キャリアパスポート等の活用を図る。
働き方改革	一部の教員に仕事が集中し、特定の教員の在校時間が長くなる傾向にある。また、担任や校務分掌の長が部活動の第一顧問を兼務することが多い。	校務分掌等における仕事の割り振りを平準化させる必要がある。

5 中期的目標

1	水産業並びに海洋開発に従事するスペシャリストを養成するための教育課程の編成を工夫し、生徒が主体的・意欲的に学習し、社会人として役に立つ人間力を育成する学校をめざす。
2	道徳教育を積極的に取り入れ、生徒の規範意識や社会性の育成を図り、予防的な生徒指導を実現する。
3	大学進学希望や就職希望など、生徒の多様な進路希望に応じ、個人面接や進路ガイダンスなどを行い、きめ細かな進路指導の充実を図る。
4	集団生活を通して、生き生きとした人間関係を築き、体育祭・海洋祭（隔年実施）やクラスマッチなどを生徒自らが計画・実行できるよう学校行事の内容の充実を図る。
5	地域との連携を図り、海洋教育の大切さを積極的にPRする。
6	校務分掌内での仕事の配分の平準化を図る。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 教育の質の保証	(1) 生徒一人ひとりの成長を願い、日常における生徒理解と生徒観察に努める。 (2) 生徒の学校生活への充実度や達成感を高める。 (3) 生徒の自立を促す「自発的な学び」の指導の充実を図る。(自己指導能力の育成) (4) 生徒個々の良さを伸ばし、全員を進級及び卒業へと導く。(状況に応じ個別に支援)

別紙様式 1 (高)

	(5) いじめや体罰のない「安心・安全な学校」を目指す。(生徒の心のケアの充実) (6) 全職員が品格を保って勤務する。(コンプライアンス・学校の信頼高揚) (7) I C Tを活用した学習活動の充実を図る。 (8) 地域の諸学校や関係機関・団体等との連携を推進する。
2 地域に信頼され、愛される地域産業の担い手の育成	(1) 挨拶・返事・身だしなみ・5分前行動の指導・支援の充実を図る。 (2) 家庭と密に連携し、欠席・遅刻を減らし、皆勤者・精勤者を一層増やす。 (3) 魅力ある進路先の新規開拓。 (4) 企業実習・みんプロ・地元イベント・ボランティア活動への参加を推進する。 (5) 学校ホームページ・インスタグラム・県教委フォトニュースでの情報発信やマスコミへの情報提供により広報活動を充実させる。
3 生徒一人一人の学習指導の充実	(1) 授業時間の確保と授業の改善を推進する。(目標の明確化、言語活動の充実、観点別評価を踏まえた評定) (2) 職員間の情報共有を促進する。(学年・学科・教科・分掌・部活動等→チーム海洋) (3) 生徒の学習意欲の向上を図る。(検定試験への挑戦、体験的な学習推進) (4) 校内環境の整備を推進する。
4 開催イベント等の成功	(1) 生徒が主体的に学校行事に参加し、達成感を得るよう支援する。 (2) 行事等から自己実現とキャリア形成のため、キャリアパスポート等の活用を図る。 (3) 保護者や地域に広く周知するとともに、各種の情報発信や情報提供により広報活動を充実させる。
5 働き方改革	(1) 働き方改革を推進する。 (2) 一部の教員に仕事が集中することを防ぎ、チームとしての取り組みを強化する。